

お米をたくさん食べよう

さいたま市立土呂中学校 三年

川 添 真理子

私は、今年の夏、部活動を引退しました。部活動をしている間、私は今よりもたくさんのお米やおにぎりを食べました。どれだけたくさんのお米やおにぎりを食べ、部活動を続けていたのか、お米を作ってくれた農家の人や、ご飯やおにぎりを作ってくれた母への思いを考え、まわりの人へ、作文を通して、感謝の気持ちを伝えたいと思います。

私が、食べているお米は、埼玉県産のコシヒカリです。北川辺地区で収穫されたお米を母が直売所で玄米のまま、購入してきます。玄米で購入したお米を、食べる直前に、近くの精米所へ持って行き、私と母で精米します。中学生になった頃から、重いお米を精米所へ運ぶのが私の役目です。精米したてのお米は、真っ白でつやつやしていて、手で触れると、お米の香りや優しさが伝わってきます。私は、母と精米所に行くことを、毎回、とても楽しみにしています。理由は、自分で毎日、食べるお米の品質を、自分の目で確かめることができるからです。精米されたばかりのお米が、茶色いお米を入れる袋に流れおちる音をききながら、幸せな気持ちになります。私は、北川辺産のコシヒカリが大好きです。

中学生になり、部活動を始めて、私はテニス部に入りました。練習試合や大会のとき、必ず、おにぎりを持って行きました。埼玉産の北川辺のお米は、やわらかく、もしもちとした歯ごたえがあり、冷めてもとても美味しいです。冷めてもおいしいお米はおにぎりに適しています。食べやすい家庭的な優しさのある味は、生産者の方が丹精こめ育てたお米は、一度食べたら忘れられないほど美味しいお米です。口の中に入れると、お米特有の甘い香りが広がり、白いご飯だけでもたくさん食べることができます。部活動のとき、母が作ったおにぎりを何個食べたでしょうか。あのおにぎりのおかげで、つらい練習を乗りこえることができたのだと、部活動を引退した今、改めて、お米のすばらしさを実感します。埼玉出身の母は、小さい頃から北川辺のお米を食べていたということもあり、私は小さい頃からずっと、北川辺のコシヒカリを食べて育っています。他のお米も美味しいですが、北川辺産のコシヒカリが、一番、美味しいと思います。炊きたてのお米は、最高に美味しいです。他のどのお米より、白く輝き、かめばかむほど、甘さが口の中に広がります。お米を食べると、食べた人みんなが笑顔になります。北川辺産のコシヒカリは、食べた人すべてを笑顔にする不思議な力を持っています。

お米のすばらしさは、腹持ちがいいことです。だから私は、毎日、食べ続けます。パンやめん類に比べ、食べたときの満足度はとても高いです。テニスの大会のとき、片手で食べることでおにぎりは、ありがたいです。手を汚さず、口に運ぶことができます。一番優れた食べ物です。腹持ちのいいおにぎりのおかげで、私は、テニスの大会や部活動のとき、具合が悪くなることがありません。まわりの人が、体調を崩すような暑い夏でも、私は、一度も見学することがありませんでした。毎日、たくさんのお米を食べたおかげで、休まず部活動ができたことに、心から感謝しています。今の若者は、お米を食べない、全体的にお米の消費量が減っていると言われていますが、私は、もともと日本中の人に食べて、健康で丈夫な体を作ってほしいと思います。

今日も、我が家の朝は、白い炊きたてのご飯が、食卓に並んでいます。つやつやと輝くお米は、強い体を作るだけでなく、食べた人みんなを笑顔にします。お米一粒はとても小さいけれど、一粒一粒が集まり、家族みんなを幸せな気持ちにしてくれます。お米を作る人に敬う心を常に持ち、お米一粒一粒を残さず大切に食えることが、今の私にできる最大限のことです。日本の食文化の中心であるお米を大切に、感謝して生きていきたいです。